



安全報告書 2023

索道事業



街にいろどりを。人にときめきを。



NIHONDAIRA
ROPEWAY

1. ごあいさつ	2
2. 安全方針と安全行動規範	3
2-1. 安全方針	3
2-2. 安全行動規範	3
3. 安全管理体制	4
3-1. 輸送の安全確保に向けた体制	4
3-2. 安全管理のためのPDCAサイクル	5
4. 2023年度 事故・障害等に関するご報告	14
4-1. 事故発生件数等	14
5. 安全確保のための取組	15
5-1. 安全設備と資質管理	15
5-2. 安全運行を支える人財	16
5-3. 係員に対する教育訓練	17
5-4. 防災・防犯、その他の対策	18
6. お客様・地域の皆様へのご協力をお願い	21
6-1. ロープウェイ乗車時のお願い	21
6-2. 不審者・不審物について	22
6-3. AED（自動体外式除細動器）について	22
6-4. 事故・災害等発生時の運行について	23

1. ごあいさつ

安全・安心・快適のあくなき追求



代表取締役社長
川井 敏行

日頃より、静岡鉄道ならびに静鉄グループにご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。また、地域の皆様におかれましては、鉄道事業運営に格別なるご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、人流の回復やインバウンド需要が順調に回復し始める中、「安全・安心・快適のあくなき追求」の経営理念に基づき、安全で質の高い商品・サービスを提供し、地域のお客様に安心や快適をもたらすため事業活動を行ってまいりました。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴う人流の回復や、大河ドラマの放映効果で、日本平ロープウェイの輸送人員が過去最高となりました。しかしながら、原材料価格の高騰や大幅な円安による物価上昇のためのコスト増など、依然として厳しい状況も続きました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては「中期経営計画2025」に基づき、グループ全体の守るべき財務規律の定着と各社自律性の追求により事業の健全な維持・成長、従業員のウェルビーイング向上の実現に向けたアクションプランの実行に取り組んでおります。

当社索道事業におきましては、より一層安全への意識を高め、日々業務に取り組んでおります。輸送の安全確保に関する基本方針である「安全方針」や「安全行動規範」のもと、社員一丸となって安全輸送に注力し、法令や規程の遵守、自然災害へ備えております。そして、輸送の安全を確保することを最大の使命と考え、日々の業務において継続的改善によるスパイラルアップを図り、安全対策に努めております。

2023年度は、台湾の台北大衆捷運株式会社（台北メトロ）が運営する猫空（マオコン）ロープウェイと双方の認知度向上および相互誘客を目的とした友好協定を締結しました。また、日本平消防署と合同で応急下降訓練を実施したほか、お客様に安心してご利用いただくため、ドローンを活用した点検に取り組んでまいりました。

なお、本報告書は鉄道事業法第19条の4に基づき、2023年度に実施いたしました安全重点施策、輸送の安全確保のために取り組んだ施策につきまして、皆様に広くご紹介し、安全輸送に役立てていくものであります。

今後につきましても、お客様からより信頼される鉄道事業者となるよう努めてまいります。内容につきまして、お気づきの点がございましたら、是非ご意見・ご感想をお寄せください。

2. 安全方針と安全行動規範

静鉄グループは、交通運輸事業だけでなく、すべての事業において「安全・安心・快適のあくなき追求」を経営理念としております。

索道事業では、2006年10月に「索道安全管理規程」を定め、輸送の安全を確保するための基本的な姿勢を示した「安全方針」、その行動の基本となる規範を示した「安全行動規範」を策定し、索道事業に従事する全社員が一丸となって輸送の安全を確保するための取組を行っております。

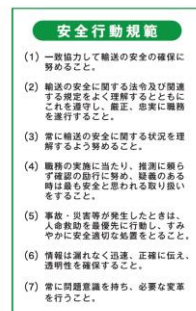
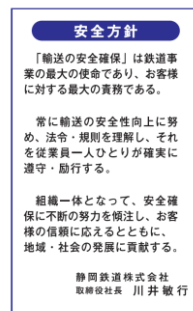
2-1. 安全方針

- ◆「輸送の安全確保」は鉄道事業の最大の使命であり、お客様に対する最大の責務である。
- ◆常に輸送の安全性向上に努め、法令・規則を理解し、それを従業員一人ひとりが確実に遵守・励行する。
- ◆組織一体となって、安全確保に不断の努力を傾注し、お客様の信頼に応えるとともに、地域・社会の発展に貢献する。

2-2. 安全行動規範

- (1) 一致協力して輸送の安全の確保に努めること。
- (2) 輸送の安全に関する法令及び関連する規定をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行すること。
- (3) 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること。
- (4) 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをすること。
- (5) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること。
- (6) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保すること。
- (7) 常に問題意識を持ち、必要な変革を行うこと。

「安全方針」「安全行動規範」は、点呼時や朝礼の際に定期的に唱和することにより周知徹底を図っています。また、職場に掲示するだけでなく、常に携帯できるようカードを作成し、全社員に配布することで安全最優先の風土醸成に努めております。



携帯用カード

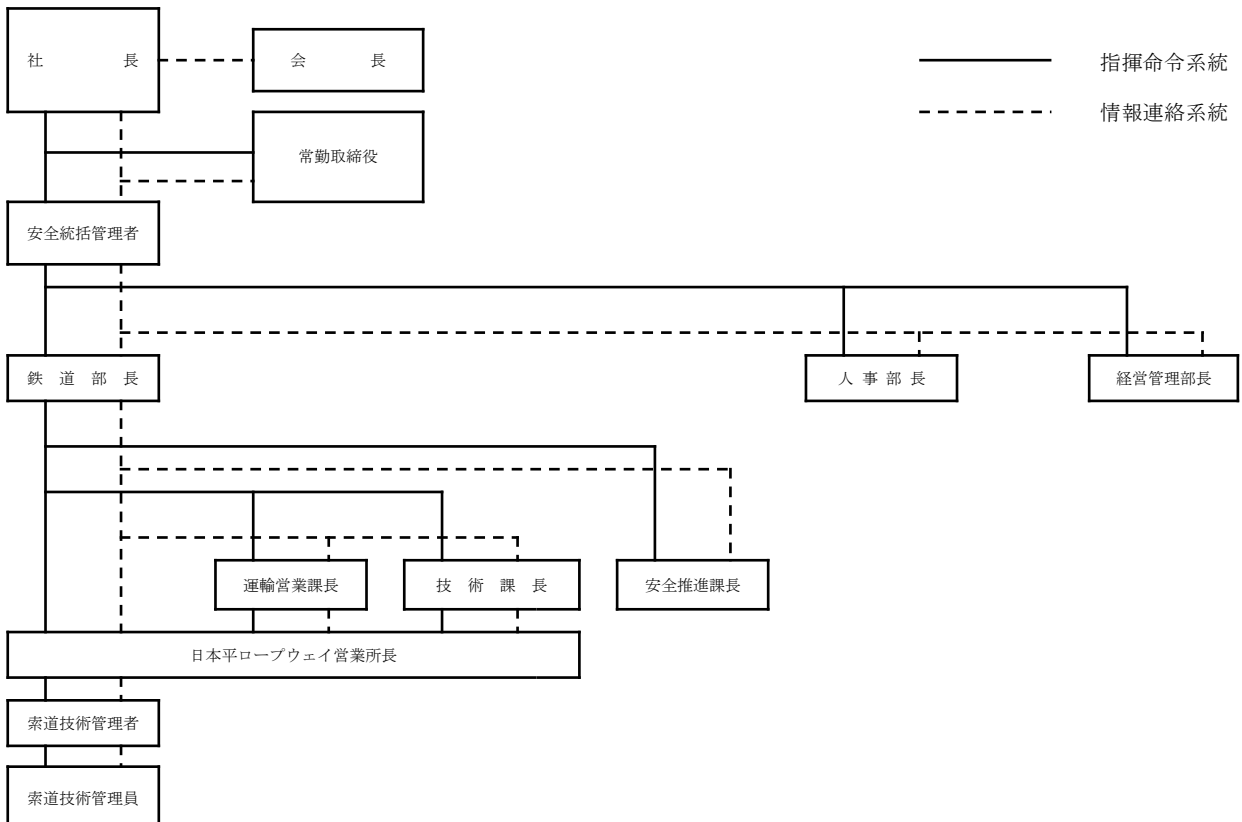
3. 安全管理体制

当社では、2006年に改正された鉄道事業法に基づき「索道安全管理規程」を制定しております。索道安全管理規程では、社長を最高責任者として各管理者の責任を明確にした上で各種施策を実行するとともに、その検証と改善を行うことで、安全性向上のためのPDCAサイクルを確実に実行し、輸送の安全水準の維持および向上に努めております。

3-1. 輸送の安全確保に向けた体制

社長	輸送の安全確保に関する最終的な責任を有する。
安全統括管理者	輸送の安全確保に関する業務を統括する。
鉄道部長	安全統括管理者を補佐する。
日本平RW営業所長	安全統括管理者の指揮の下、索道事業の輸送に関する業務を行なう等、安全統括管理者を補佐する。
索道技術管理者	安全統括管理者の指揮の下、索道の運行管理、索道施設の保守管理、その他の技術上および教育訓練等の事項に関する業務を統括管理する。
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮の下、索道技術管理者の行う業務を補助する。
経営管理部長	輸送の安全確保に必要な設備投資、財務に関する事項を統括する。
人事部長	輸送の安全確保に必要な要員に関する事項を統括する。
安全推進課長	安全統括管理者の指揮の下、内部監査、事故防止施策の推進に関する事項を統括する。

安全管理体制図



3-2. 安全管理のためのPDCAサイクル

輸送の安全を確保するためには安全管理体制にPDCAサイクルを組み込み、継続的に見直し・改善を図ることが重要となります。PDCAサイクルとは「計画を立て、それを実行し、そして自らの取組をチェックし、見直しを行う」ことであり、当社では、その考えに基づき各種取組を行っております。

■ PDCAサイクル

Act (改善)

- ・ 計画の見直し
- ・ 次年度計画への反映

Plan (計画)

Plan (計画)

- ・ 安全方針
- ・ 安全目標
- ・ 安全重点施策

Act (改善)

Do (実行)

Check (確認)

- ・ 内部監査の実施
- ・ 安全マネジメント会議の実施
- ・ 取組の評価・振り返り

Check (確認)

Do (実行)

- ・ 計画の実行
- ・ 取組の実施

(1) 安全目標・安全重点施策 (2023年度)

安全方針に基づき、輸送の安全を確保するため、安全目標および安全重点施策を策定しております。2023年度は、以下の内容について、教育・訓練や施設の整備を実施いたしました。

■ 安全目標 (2023年度)

運転無事故の完遂

安全目標を達成するため、様々な安全性向上施策に取り組んでおります。その結果、2023年度も運転無事故を達成することができました。

■ 安全重点施策（2023年度）

安全目標を達成するための具体的な取組計画を安全重点施策として定めております。

① 経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上

1. 安全統括管理者とのディスカッション
2. 動画、eラーニング等を活用した安全重点施策の周知

② 様々な状況における対応方の理解向上

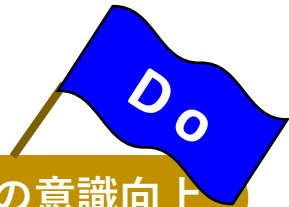
1. 消防と合同で最深部における応急下降方確認
2. 2つの搬器による応急下降を想定した情報伝達確認
3. 台風15号発生時の本来の対応方確認

③ DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上

1. ドローンを活用した日次点検・異常時確認導入に向けた検討
2. ヒヤリ・ハット総報告件数20件
3. ヒヤリ・ハットに関する動画、eラーニング等を活用した教育

④ 自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現

1. 2号柱付近の通路整備完了



① 経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上

1. 安全統括管理者とのディスカッション

安全統括管理者と現場社員が業務における課題や問題について直接議論し、安全に対する考え方や改善すべき点を共有することで、安全意識の向上に繋げております。議論をすることで、安全について改めて考えることや何を優先すべきかということを確認することができました。



営業系社員との
ディスカッションの様子



技術系社員との
ディスカッションの様子


2. 動画、eラーニング等を活用した安全重点施策の周知

安全重点施策は、鉄道部全社員で内容の共有を図るために解説動画を作成し、社内で共有をしています。さらに、eラーニングの教材を作成し、動画視聴と合わせて内容の周知徹底を図る取組を行っております。

(5) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること。

<鉄道事業>

中期到達目標 (2023～2025年度)	2024年度実施事項
様々な状況における対応方の理解向上	【異常時対応訓練】警察と合同で運行中の列車内等の高度な状況における対応訓練 【異常時対応訓練】消防と合同での異常時対応訓練 【災害対応訓練】地震発生時の現地対策班の対応訓練



安全重点施策解説動画の様子

小テスト

1.安全重点施策の根拠について

時間の目安：3分 合格点：10点 満点：10点

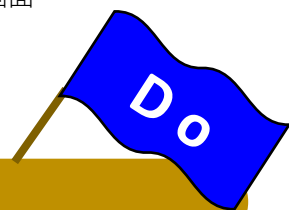
問題 1: (配点 10点)

安全重点施策は何に基づいて設定されていますか。

- 労働基準法
- 鉄道事業法
- 経営理念
- 運輸安全マネジメント制度

次へ▶

eラーニングの画面



② 様々な状況における対応方の理解向上

1. 消防と合同で最深部における応急下降方確認

大規模地震や事故発生等により、ロープウェイの運行が不能となり、応急下降にてお客様を搬器より救助する訓練を日本平消防署と合同で実施しました。今回は、現在の搬器になってから初めて最深部が約70mある2号柱付近を発災場所と想定しました。新しい搬器で初めて最深部で応急下降を実施したことで、高さが約5mの1号柱付近で行う普段の訓練では見えてこなかった課題を明らかにすることができました。今年度も引き続き日本平消防署との合同訓練を実施し、技術力向上に努めてまいります。



最深部における応急下降訓練実施の様子

2. 2つの搬器による応急下降を想定した情報伝達確認

例年の訓練では、1つの搬器を使って応急下降訓練を行っていますが、より実践的に2つの搬器を同時に使用した訓練を実施しました。既存の応急下降マニュアルを使用し、両搬器からの同時進行で応急下降を行い、現行マニュアルの修正必要箇所等を確認しました。各搬器との連絡を密にとることなどで、現行のマニュアルに不備等がないことを確認する良い機会となりました。



応急下降訓練の様子

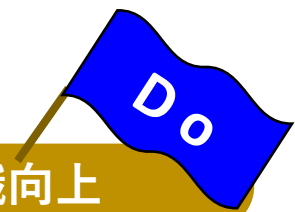
3. 台風15号発生時の本来の対応方確認

◆ 台風対応図上訓練（運輸防災マネジメント）

各種災害の中で「豪雨災害」は当社でも発生リスクが高いため、訓練参加者がなすべき意思決定と役割行動を問い、その妥当性の検証を通じてタイムラインの理解を深めることを目的とした台風対応図上訓練を2023年度6月に実施しました。



台風対応図上訓練の様子



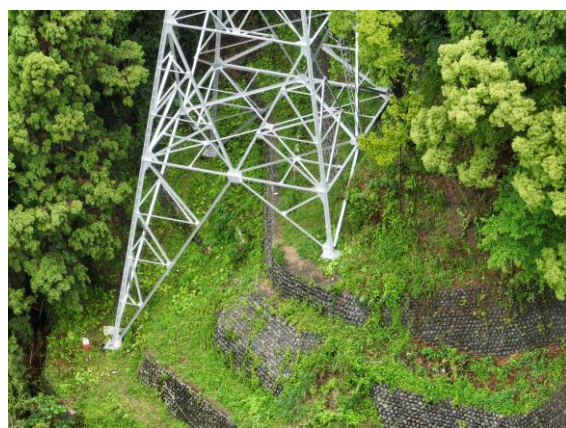
③ DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上

1. ドローンを活用した日次点検・異常時確認導入に向けた検討

2022年度内に当社従業員がドローンの運転資格を取得し、2023年度の本格導入に向けて準備を進めてまいりました。2023年6月までにドローン機材の導入と機体登録等諸申請、マニュアルの整備を行い、当社の従業員でドローンを飛ばして各種点検をすることができるようになりました。大雨の後などに施設・設備の点検を行う際、従前は、従業員が支柱の基礎部分を確認するために山に登り、目視で点検を行っておりましたが、ドローン導入後は、大雨発生後の山登りを実施することなく、精度の高い点検を機動的に行うことができるようになり、ロープウェイの安全はもちろん、従業員自身の安全性向上にもつながっております。今後も、引き続きドローンを活用した点検や異常時の確認を実施してまいります。



今年度導入したドローン (Mavic3)



実際にドローンで撮影した2号柱の様子

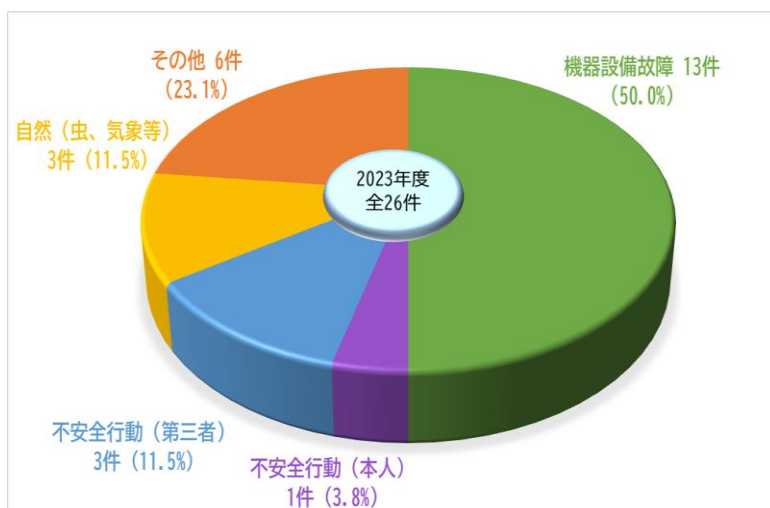
2. 有益なヒヤリ・ハット情報の収集

◆ 総報告件数 年20件以上

ヒヤリ・ハットとは、重大な事故や災害に直結しかねないような事例の認知を指します。今後起こり得る事故や災害を未然に防止するために、事例の認知・収集・対応が大切です。

当社ではヒヤリ・ハット情報の報告件数増加や質の向上を目的に、本社担当者が現場に行き、社員から直接ヒアリングを実施しております。また、報告案件への対応を事務所内に掲示することで対応を見える化しております。

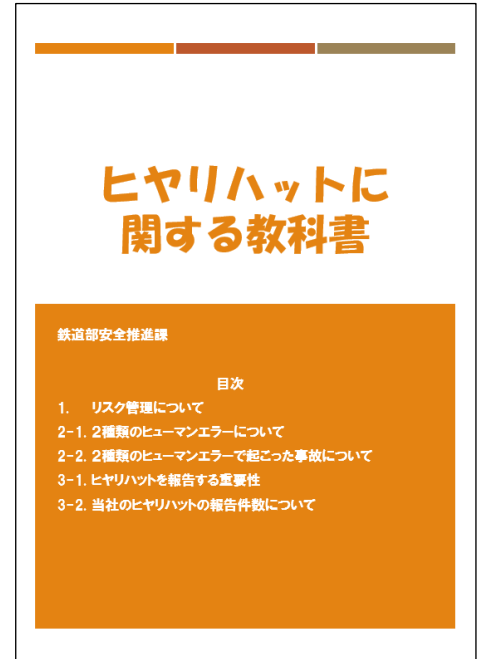
2023年度は全体を通して20件以上の報告を収集することを目標に取り組みまいりました。結果として26件の報告を収集でき、ヒヤリ・ハットを元に改善できた事例が多くございました。2024年度も安全意識をより一層高く持ち、安全に向けた改善を継続してまいります。



2023年度ヒヤリ・ハット報告(原因別)

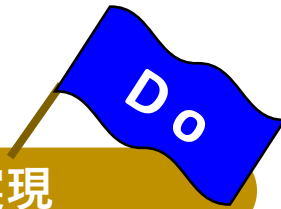
3. ヒヤリ・ハットに関する動画、eラーニング等を活用した教育

過去に実際に起こったヒヤリ・ハットの事例やヒヤリ・ハットを報告する意義などをまとめた解説用の教材を作成し、社内で共有をしています。合わせて、eラーニング教材を作成し、内容の周知徹底を図る取組を行っております。ヒヤリ・ハット事例の収集は、事故や災害発生の未然防止に役立つほか、社員の意識向上にもつながるため、2024年度もさらなる報告数の向上に向けて、周知徹底を図ってまいります。



作成した教材の例

④ 自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現



1. 2号柱付近の通路整備完了

2号柱付近の歩行通路整備を計画しておりましたが、2023年度5月の降雨で付近に土砂崩れが発生したことから、当該土砂崩れの復旧と工所用仮設通路の整備に切り替えて準備を始めました。2号柱については、設計・施工業者や建設業者などとの調査で特に影響がないことを確認しましたが、引き続き、傾斜計やトレイルカメラを設置することによる遠隔からの監視を続けてまいります。今後、静岡県や静岡市と連携し、関係各所の申請許可が下り次第、工所用仮設通路の整備および土砂崩れの復旧等を行ってまいります。



2号柱



2号柱付近調査の様子



Check

(2) 安全マネジメント推進委員会

この会議は、安全統括管理者を中心とした各管理者で構成され、事故や故障に関する報告と教育訓練の実施状況、ヒヤリ・ハット情報やその対策等、安全に関する事故の共有と安全管理体制の見直しを目的として毎月1回、経営トップまで参加して実施しております。



会議冒頭に「安全方針」を唱和する様子



会議の様子



Check

(3) 静鉄グループ運輸安全マネジメント委員会

運輸安全マネジメント体制をグループ横断的に構築していくことを目的に2006年から開催しているもので、2023年度は第18回目の開催となりました。本年度も静岡鉄道株式会社の会議室にて対面での開催となりました。

当日はしずてつジャストライン株式会社尾形常務取締役、東急バス株式会社運輸事業部安全技術部安全グループ課長田邊利崇様に「東急バスにおける安全への取り組み」と題して、安全管理体制の構築や安全風土の醸成などの視点から講演いただきました。その他、各社の安全報告書の中から前年度に取り組んだ内容を安全統括管理者が発表するなど、グループ内で安全に関する課題の共有、対応策について議論することができました。



会議の様子



Check

(4) 内部監査

「運輸安全マネジメント」における取り組みが適切に実行できているかを確認するため毎年1回内部監査を行っております。

監査項目は、国土交通省が策定した「運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン」および当社の「鉄道・索道 安全管理規程」とし、監査対象は社長および安全統括管理者、その他各管理者です。内部監査では、各管理者が輸送の安全確保に関する業務にどのように関与し、安全管理体制の構築・改善に取り組んでいるかを確認しており、効果的な取組は評価し、改善が必要であれば助言をするなど、継続的改善に努めております。

(5) 社長および安全統括管理者巡視

社長および安全統括管理者は、国土交通省が定めた年末年始輸送安全総点検期間（12月10日～1月10日）やその他機会において、現業職場を巡視し、輸送の安全確保への取り組み状況や実作業の確認、現業職員との意見交換を行い、綿密に安全管理体制の確認を行っております。



社長巡視



安全統括管理者巡視

(6) 安全目標・安全重点施策（2024年度）

2024年2月に開催された「安全マネジメント推進委員会」において、2023年度安全目標および安全重点施策について振り返りを行いました。その結果、2024年度の安全目標は「運転無事故の完遂」とし、安全重点施策は基本理念と中期到達目標を整理したうえで選定しました。基本理念は安全行動規範の内容と一致させ、その理念に合った2025年度に到達すべき目標を中期到達目標としています。

■ 安全目標

運転無事故の完遂

■ 安全重点施策

基本理念	中期到達目標 (2023~2025)	2024年度実施事項
一致協力して輸送の安全の確保に努めること	経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 安全統括管理者とのディスカッション 動画、eラーニング等を活用した安全重点施策の周知
常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること	社内外の事故情報の収集・活用による安全性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 社外で発生した事例を必要に応じて運輸安全マネジメント推進委員会にて報告・分析
事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること	様々な状況における対応方の理解向上	<ul style="list-style-type: none"> 消防と合同で行う応急下降方確認 警察と合同によるさすまた使用方法訓練 旅客誘導を含む地震発生時の対応訓練
常に問題意識を持ち、必要な変革を行うこと	DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 点検・報告業務のシステム化の展開 ヒヤリハット総報告件数30件 動画、eラーニング等を活用したヒヤリハット教育
輸送の安全を確保するための施設・設備投資を適切に行うこと	自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現	<ul style="list-style-type: none"> 2号柱土砂崩れ箇所補修工事 久能山駅舎耐震補強工事

2024年度も、目標達成に向け社員一丸となって安全確保に努めてまいります。

4. 2023年度事故・障害等に関するご報告

4-1. 事故発生件数等

2023年度の事故等の発生を以下の通り報告します。

①索道運転事故

該当事象なし

②インシデント（事故の兆候）

該当事象なし

③行政指導等

該当事象なし

・索道運転事故

国土交通省の鉄道事故等報告規則（省令）に基づく、索条切断事故、搬器落下事故、搬器衝突事故、搬器火災事故、索道人身傷害事故をいいます。

・インシデント

索道運転事故が発生する恐れのあるものをいいます。

5. 安全確保のための取組

5-1. 安全設備と健康管理

安全で快適なロープウェイの運行を支えるために、ソフト・ハード両面から輸送の安全を確保するための取組を行っております。

①施設の安全対策

日本平駅および久能山駅のホームには柵を設け、転落防止の対策を図っております。また、機器および駅設備の状況を遠方からモニタリングできる設備も整えております。



②定期検査・保守について

お客様に安全に、そして安心してご利用いただくため、関係法令および索道整備細則に基づき、始業点検、1ヶ月検査、3ヶ月検査、一年検査等計画的な点検、保守作業を行い安全確保に努めております。



③健康管理

出勤点呼時に監督者による健康状態の確認を行うほか、カメラ付き装置によるアルコールチェックを係員全員が実施しており、健康診断も定期的に受診しております。



アルコールチェックの様子

5-2. 安全運行を支える人財

①営業・ガイド係

日本平駅・久能山駅では切符を販売しているほか、搬器へのスムーズな乗降を促すためにガイドによる誘導を行っております。多客時にお客様をできる限りお待たせしないよう、迅速な案内に努めております。



②技術係

日本平と久能山駅間の約1 kmは3本の鉄塔とロープ（支索）で結ばれております。点検は約50 mの鉄塔やゴンドラの上で行うものもあり、危険を伴います。そのため、係員は作業前に念入りに準備を行うほか、日頃も教育により索道保守技術や安全対策について、知識や技能の向上に努めております。



5-3. 係員に対する教育訓練

輸送の安全を確保する上で、知識技能の維持および向上は不可欠であるため、当社では年間教育訓練計画に沿って、係員に対する教育・訓練を定期的実施しております。

■ 異常時訓練

◆ 予備原動機巻き上げ訓練

電力の供給がストップした場合を想定し、ディーゼル動力を使用してゴンドラを両端駅に収容する予備原動機巻き上げ訓練を3ヶ月に1回行っております。



予備原動機の巻き上げを行う様子

5-4. 防災・防犯、その他の対策

① 風向風速計

輸送の安全を確保するため運転室内には風速計などの機器を設置して常時監視しており、インターネットの活用により雷雲の接近等の監視も行っております。なお、当社では風速が15 m/秒以上となった場合には運転を見合わせます。



風向風速計

② 監視カメラ

有事の際、状況を迅速に把握し、対応するために監視カメラを設置しております。このカメラはネットワークへ接続しているため、離れた場所からでも現場の状況を確認することができます。

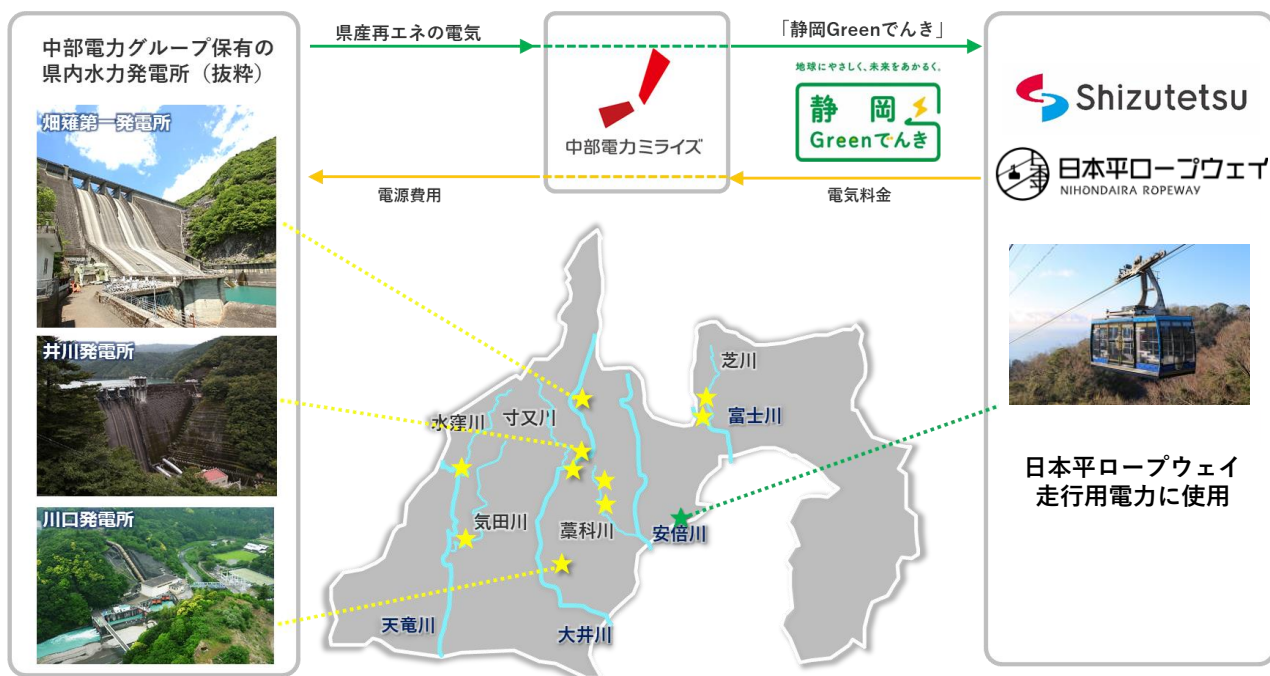


監視カメラ（日本平駅）

③省エネ・快適性

■ 再生可能エネルギー100%で運行

当社では、2023年度より静岡県内の索道事業で初めて、静岡県産のCO₂排出量ゼロの電気「静岡Greenでんき」100%による運行を開始しました。「静岡Greenでんき」は、中部電力ミライズ(株)のご協力により、県内に立地する大井川・天竜川・富士川・安倍川の各水系にある水力発電所の再生可能エネルギー由来の環境価値を活用した電気です。当社では、鉄道事業においても県内で初めて「静岡Greenでんき」を導入しており、現在、A3009号(2020年度導入)とA3011号(2022年度導入)、A3012号(2023年度導入)が運行しております。当社では、今後も引き続き、グループ全体で再生可能エネルギーへのシフトを積極的に推進することで、環境負荷低減につなげていきたいと考えております。



④安全ニュースの発行

安全に関する取り組みをまとめた「安全ニュース」を定期的に発行しております。毎月開催される運輸安全マネジメント推進委員会における社長の発言やヒヤリ・ハット事例の紹介・募集などを掲載しております。鉄道事業の社員だけでなく、全社員が閲覧可能なグループウェアに掲載することで、会社全体で安全意識の高揚に努めております。

安全ニュース

企画・編集
 鉄道部
 安全推進課
 2023年4月発行

運輸安全マネジメント推進委員会 社長訓示(一部抜粋)

運輸安全マネジメント推進委員会は、経営トップから現場まで一丸となった安全管理体制を適切に構築するために設置されている委員会です。
 鉄道事業における安全への意識をより一層向上するため、月に一度社長・会長を交えて安全態勢や日々の諸課題への対応確認をしております。

1月

昨年が歴史的な豪雪があり、非常に寒い月が続いている。気象に関する他社事故事例の調査結果を注意深く見るべきであると考え。今月の他社事例では規則に則り、安全が確保されるまでお客様を降ろさない対応を。マニュアル通りの対応ではなく、その場で必要判断をすることも事態の悪化を防ぐことが可能であったかもしれない。我々も同様の事態に陥る可能性を視野に入れて対応について学んでいければと思う。

また、今年度の年末年始輸送安全重点施策に対しておぼろい申し上げます。今年もあと2か月、引き続き安全のための取組を続けていたければと思う。

2月

今年度は人数が大きく減ることなく安定したオペレーションが実施でき、無事故を継続することが出来ている。現在は春季労働交渉中であるが、皆さんの安定的な生活を守る事が安全運行につながるという意識で交渉を進める。

日本人は互いの思いやりを慣れている一方で人との衝突を避けたがる傾向にある。それが悪い意味で強ひられる言やぶることが言えやすくなり危険が放置され、事故発生につながるおそれがある。目上の人であってもあかしたと思うことはあかしたと発言できるように、言い合える関係づくりを怠ることが大切である。そのように関係づくりが安全を守ることへの一歩となることを祈り続けていただき、互いにアポイントできる職場にしたいと思うのでよろしくお願いする。

3月

本年も無事故を継続していただいた皆様に感謝申し上げます。無事故の継続は収支に対する多大な貢献となっている。当社グループ全体の事業に安全の精神が貫かれているため、グループの安全象徵として次年度も取り組んでいく使命感を強くしているところである。

交通輸送業における森田は安全を守るという意味で特別な意味があるため、本年も出来る限り積極的に従業員の方々の声を聴き、実現に向けて動いてきた。鉄道部においては今年度は昨年度と比較して離職率が大幅に下がったことを嬉しく思う。特に索道では12月から大変忙しい中復元された人員で無事故で運行していたことにも感謝を申し上げます。取支面でも非常に貢献度が高い事業であるため、頑張っていただければと思う。

この1年間感謝とおぼろい申し上げます。来年度もよろしくお願いする。

4月号ヒヤリハット紹介

今月ご紹介するヒヤリハットは、電車ホームにおける車いすに関するヒヤリハットです。
 車いすのお客様対応で乗降補助をする際、車輪が少し動きヒヤッとした、という内容でした。

もちろん静かな電車は車いすのお客様にも大変ありがたいだけですが、係員がお手伝いさせていただいておりますが、車いすの操作には十分な注意が必要です。ご存知の方も多かもしれませんが、都ホームは線路側に向かって緩やかな下り斜面となっております。当社従業員は、車いすのお客様対応をする際にはホームと並行に車いすを押めるよう徹底しております。

しかし、車いすは車輪がついているため、思わぬタイミングで車輪が若干動いてしまうことも珍しくありません。車輪が動いたことを確実に確認するよう、安全確保を引き続き徹底して参ります。

各種表彰

中部運輸局長表彰
 運輸運輸営業所 河野征彦運転士
 [表彰要件]
 責任事故が無く、動力車操縦者としての経験が20年以上有している50歳以上の者

厚生労働省大臣顕彰
 施設車両管理所 吉田一哉保線係長
 [表彰要件]
 職長として10年以上の経験があり、安全管理に関する部下の指導教育を積極的に活動している者



運輸安全マネジメント推進委員会において河井社長より表彰いただきました。

2023年度 鉄道部 安全重点施策

本年度は鉄道部の安全重点施策を一新し、安全行動規範を基本理念とした施策に変更をいたしました。本年は以下の重点施策の下、運転無事故の完遂に努めて参ります。

安全目標：運転無事故の完遂

基本理念	中期到達目標 (2023-2025年度)	2023年度実施項目
(1)一致協力して輸送の安全の確保に努めること	経営トップ・現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上	動議、eラーニング等の活用 (鉄道)施設車両管理所が一体となった技術力発表会の実施
(5)事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること	様々な状況における対応方の理解向上	高度な状況における警察や消防との合同異時対応訓練 ・台風15号発生時の本来の対応方確認による災害対応強化
(7)常に問題意識を持ち、必要な変更を行うこと	DXの推進・自発的に事故の芽を見出す意識向上	DX推進による業務効率化 (鉄道)自動運転実現へのロードマップ (索道)ドローンを使用した点検導入に向けた検討
(8)輸送の安全を確保するための施設・設備投資を適切に行うこと	自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現	(鉄道)嵐ヶ崎-橋本駅間の法面補修工事完了 (索道)2号住付近の道路整備完了

一部抜粋

安統管ディスカッション

現場従業員目線での安全に対する意見交換をする機会として、年に一度、当社の安全統括管理者である田中常務とディスカッションを実施しております。現場の従業員は勤務交替に沿って勤務をしているため、直接安全統括管理者と意見を交換する機会はそれほど多くございません。そのため、現場の生の声を経営者に届ける貴重な機会となりました。

今回は「長沼車両工場の老朽化」「日本平ロープウェイ運転台の停転について」「日頃現場従業員が気になる安全対策の意見が出ましたので、今後は計画的に諸問題の解消をして参ります。」

索道異常時対応発表会

2月28日、日本平ロープウェイにて異常時対応発表会を実施いたしました。風が強く、機器の傾きを示す検知器が基準を上回った想定で、機器の緊急停止及び徐行運転再開という一連の流れを実際に機器を動かして実施しました。

実際の状況では、2台の機器と日本平にごさいます運転台が確実に連絡を取り合うことが必要となるため、無線による情報伝達も合わせて実施し、有事の際に冷静な対応ができることを確認いたしました。

不審者対応訓練

1月27日、静岡県中央監査署と協力し、新静岡駅にて発射を使用した不審者対応訓練を行いました。本訓練は、6月20日に刺殺の使用法をレクチャーされた訓練の実践として行いました。

不審者に扮した警察官が停車中の車両で刃物を振り回しているという情報を元に、警備への通報やお客様を避難させる間の時間稼ぎを駅員が刺殺を使って行いました。

実践的な状況下で訓練通りに実施する難しさを体感したため、今後も継続した訓練に取り組んで参ります。

技術力発表会

1月31日、長沼営業所にて技術力発表会を実施いたしました。

今回は架線や踏切を管理する電気区の仕事は鉄道部解説の下、皆様に見ていただきました。

静電電圧は身近な存在ながら、鉄道部現場各區区の仕事内容は専門性が深く、内容が驚くほど詳しく感じられた方も多くは聞かれましたが、今回の発表会をきっかけに、少しでも興味を持っていただきましたが、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

安全ニュース (2023年4月号)

6. お客様・地域の皆様へのご協力のお願い

ロープウェイが安全に運行するためには、お客様や地域の皆様のご協力が欠かせません。当社では、案内放送や掲示物でご利用時の注意をお願いしておりますが、皆様に安心してご乗車いただく為にも、安全の確保にご協力をお願いいたします。

6-1. ロープウェイ乗車時のお願い

■ 手すりには腰かけないでください。

ゴンドラに乗車する際にご利用いただく通路には手すりが設置されております。手すりを必要とされる方もおりますので、その上に腰かけることはおやめください。特に、お子様が腰かけた場合、手すりから転落し、怪我をする恐れもありますので絶対にやめてください。



手すり（日本平駅ホーム付近）

■ 危険物は持ち込まないでください。

他のお客様に危険をおよぼす物の持ち込みは禁止しております。

■ 乗車中、窓から手をだしたり、物を捨てないでください。

窓から手を出すことは大変危険ですのでおやめください。また、物の投棄はゴンドラの下を通行する方を負傷させる可能性があり、投棄した物が周辺の環境へ影響を及ぼすこともありますので絶対におやめください。

■ つり革にぶら下らないでください。

けがの原因や他のお客様のご迷惑となりますので、つり革にぶら下るのはおやめください。

■ 乗車中、手すりに上らないでください。

手すりに上ると、窓から落下する危険性が高まります。特に小さなお子様をお連れのお客様はご注意くださいますようお願い申し上げます。

■ 異常時は係員の指示に従ってください。

停電や故障などでゴンドラが止まった場合は、係員の指示に従ってください。

■ その他

- ・ 飲酒酩酊等、公の秩序または善良の風俗に反するような行為があり、他のお客様に迷惑をお掛けするおそれのある場合には、ご乗車をお断りすることがあります。
- ・ ペットをお連れしての乗車をご希望の場合は、小型犬のみゲージ（頭部まで隠れるもの）のご用意があれば一緒にご乗車できます。（介助犬は一緒に乗車できます。）
- ・ ゴンドラ内は禁煙です。
- ・ 狭いゴンドラ内での携帯電話（スマートフォン）を使用した通話は周りのお客様のご迷惑となる場合があります。乗車時は電源を切るかマナーモードにするなどご配慮をお願いいたします。

6-2. 不審者・不審物について

■ 不審物・不審者を発見された時は、お近くの係員にお知らせください。

不審物発見時には次の3つの原則がありますのでご注意ください。

- ① 触れない
- ② 嗅がない
- ③ 動かさない

万が一不審物等を発見した時は、お近くの係員にすぐにお知らせください。

6-3. AED（自動体外式除細動器）について

■ 急病のお客様を発見されたときは、お近くの係員にお知らせください。

AED（自動体外式除細動器）は、日本平駅・久能山駅のほか、2016年度よりゴンドラ内にも設置しております。また、係員は消防署のご協力のもと普通救命講習を定期的に受講しております。



A E D（久能山駅）



A E D（日本平駅）



A E D（ゴンドラ内）



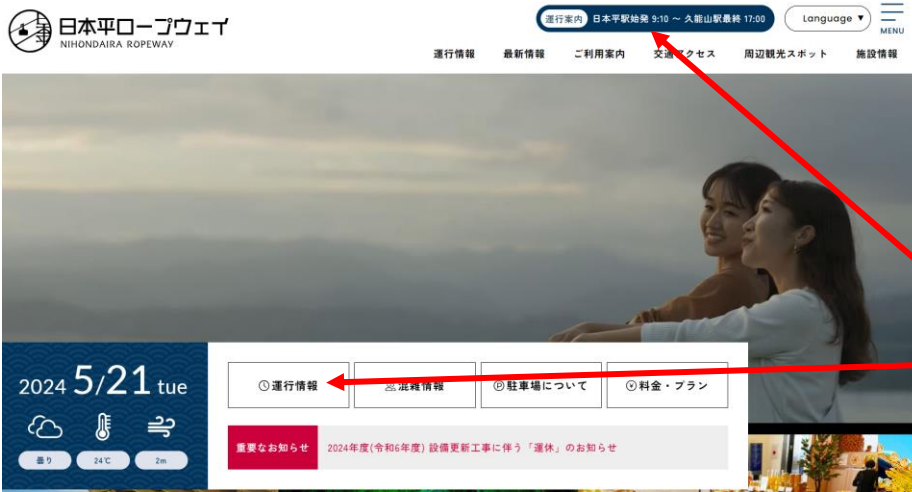
普通救命講習受講の様子

6-4. 事故・災害等発生時の運行について

■ 運行情報をお知らせしております。

ホームページやSNSを使用して運行情報をお知らせしております。事故や故障、災害等により運休している時、または臨時ダイヤで運行している場合は運行情報を更新いたしますので、お出かけの際にはぜひご確認ください。

- ・ ホームページ：日本平ロープウェイ (<https://ropeway.shizutetsu.co.jp/>)



日本平ロープウェイホームページ



日本平ロープウェイ
ホームページ

運行情報はこちらです

- ・ Facebook：日本平ロープウェイ (<https://www.facebook.com/zekkeifujisan/>)



日本平ロープウェイ

「いいね！」1,052件・フォロワー1,117人



日本平ロープウェイ
Facebook

日本平ロープウェイFacebook

安全報告書のご感想、
または安全への取組に関する
ご意見をお寄せください。

静岡鉄道株式会社 鉄道部 安全推進課
TEL (054) - 254 - 5137
FAX (054) - 273 - 0658
E-MAIL stktetsu@shizutetsu.co.jp